東京都立八王子特別支援学校
特別支援教育だより
http://www.hachioji-sh.metro.tokyo.jp/

はちまる

平成30年度
第２号
平成３０年５月２５日発行　　校長　井上　美保

副籍制度について

副籍制度とは

「都立特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の区市町村立小・中学校（地域指定校）に副次的な籍（副籍）をもち、直接的な交流や間接的な交流を通じて、居住する地域とのつながりの維持・継続を図る制度」のことです。

都立特別支援学校に通っている児童・生徒は、住んでいる地域（学区内）の小・中学校にも籍があります。その籍（副籍）がある学校の授業や行事に参加したり、お便りを交換したりといった交流を行います。地域で暮らす同級生や同世代の存在に気付き、お互いに支え合う第一歩となります。

副籍制度の目指すもの

（１）共生地域の実現

障害のある人とない人が交流を通じて相互理解を図り、互いに支えあいながら共に暮らす地域社会

（２）共生社会の担い手の育成

副籍制度に基づく交流活動は、子供一人一人の「心」を育てる教育の場

共生地域の実現にむけて

（１）八王子市を基盤とした副籍制度の推進

都立特別支援学校の児童・生徒も、市立小・中学校の児童・生徒もともに大切な「地域の子供」です。小・中学校への理解推進及び交流活動の充実に向け、市立小・中学校に出前授業をおこなったり、助言したりします。

（２）すべての児童・生徒が利用

都立特別支援学校に在籍する全ての児童・生徒が地域の小・中学校に副籍をもつことが原則となりました。

共生地域の担い手の育成に向けて

（１）交流活動を支える大人の役割

教員をはじめ、保護者、地域の人達など子供に関わる全ての大人が、互いに協力しあい未来の共生社会の担い手である子供たちを育てていく必要があります。

（２）交流活動の工夫

子供一人一人の「心が育つ」交流活動を行うためには、「無理なく続ける」ことが大切です。児童・生徒、保護者の過剰な負担にならないよう、それぞれがアイデアをもち寄り、それぞれに合った形で交流活動の充実を図る工夫を行うことが大切です。

交流活動の基本的な考え方

直接的な交流でも間接的な交流でもその内容が真の「つながり」を築くためには、「顔の見える関係」であることが大切です。たとえ間接的な交流であっても、双方の児童・生徒に「会ってみたい」という思いが醸成されるような交流活動を創意工夫することが求められます。将来の共生社会への希望がもてる交流活動を充実し、自立と社会参加につなげていく必要があります。

創意工夫のポイント

◎　子供の一人一人の「心が育つ」交流
◎　お互いの「顔が見える」交流
◎　無理なく「つづけることができる」交流
◎　将来への「希望がもてる」交流

副籍を知る会　レポート

５月７日（月）、本校にて保護者対象の『平成３０年度　副籍を知る会』を開催いたしました。保護者同士が副籍の経験や、副籍に対する考え、期待や不安等を話し合い、副籍交流への理解を深めることを目的としたものです。当日は１６名の保護者が参加し、５名の先輩保護者に、それぞれの副籍交流の経験、副籍交流への思いを語っていただきました。

保護者の方からのお話

人見知りや初めての場所が苦手なので、まずは月一回、担任の先生と会って、手紙交換をする交流から始めました。地域指定校の担任の先生が障害に対して理解があり、子供が安心できる対応をしてくださり、親子共に安心して副籍交流を始めることができました。すぐに、担任の先生や場所（教室や校庭）に慣れ、約１時間、地域の小学校で過ごすことができました。１月の出前授業では、クラスの児童が関心を示してくれ、受け入れられていると実感しました。２月には、帰りの会に参加したり、展覧会へ出展と見学をしたりしました。展覧会では、作品と一緒に顔写真を掲示してくれたので、他学年の児童にも知ってもらうことができました。家の近くで会うと声を掛けてくれることが増え、とても嬉しく思います。小学部Ｋさん保護者様

昨年度は２回直接交流を行いました。一回目は、ドッヂボールなどを行いました。ルールが分からないこともあり、途中でその場を離れてしまうことがありましたが、クラスの友達が誘いに来てくれました。２回目は、Ｓさんが楽しめるようにと、学級会で話合いをしてくれました。交流当日は、児童が企画・運営してくれたお祭り形式で行われました。色々なブースが設けられ、とても楽しく過ごすことができました。地域小学校の児童の学びにもつながったのではないかと感じました。大変なこともありますが、子供たちが暮らしやすい地域になるよう、今後も続けていきたいと思います。　小学部Ｓさん保護者様

小学１年生の２学期から交流を始めました。地域指定校の学校だよりに、副籍交流が始まることを掲載してくれたので、交流前から地域の保護者の方が声を掛けてくれました。２学期は、教室で担任の先生とお手紙交換を行いました。約１時間、担任の先生と絵を描きながら一緒に過ごすという交流を行いました。３学期になり、帰りの会に参加しました。幼稚園が一緒だった友達が控室まで迎えに来てくれ、安心して教室に入ることができました。副籍交流を通して、障害の理解、知識、現実を知ってもらえれば、本人にとって住みやすい街になるのではないかと思っています。　小学部Ｔさん保護者様

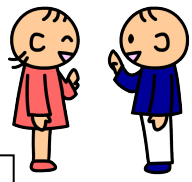
地域の方に、子供のことを知ってもらいたいと思い、交流を始めました。中学1年生の時は間接交流、中学２年生から直接交流を始めました。まずは、放課後、中学校の玄関で担任の先生と手紙交換と話をするという交流でした。中学校の下校時刻や部活動の時間だったので、挨拶をしてくれる生徒もいました。中学３年生になり、担任の先生からの勧めもあり、教室でお手紙交換をすることになりました。クラスメイトが見守る中、先生にお手紙を渡し、時々、知っている友達の名前を呼んで微笑み合うということもあり、自然にクラスの中に入っていくことができました。何度か通っているうちに、同じ幼稚園だった友達が声を掛けてくれるようになりました。最後の交流では、生徒と同じ列に並び一緒に歌を歌いました。自然な形でクラスに入れていることがとても嬉しく思いました。　高等部１年Ｉさん保護者様

副籍交流を始めたのは中学生からです。今年で３年目になります。中学生にもなれば、体力・知力の差は開くばかりですが、行事予定を確認し避難訓練や７０周年式典に参加することを決めました。参加するうちに地域指定校から「音楽会の参加はいかがですか」と声を掛けて頂くようになりました。１年目はつらい思いもありましたが、無駄ではなかったと実感しました。つらい思いをするかもしれませんが、助けてくれる方もきっといます。交流をするか迷っている方もいると思いますが、まずは、交流をしてみてはいかがでしょうか。今、実らなくても近い将来、遠い将来かもしれませんが、経験や体験が生かされるときが来ると思います。　中学部３年Ｎさん保護者様

保護者の方からの御意見

地域にいることを知ってもらいたい。

近所で出会うと声を掛けてくれるので、嬉しい。



副籍交流をしたことにより、地域の方に知ってもらうことができた。

出前授業が分かりやすくてよかった。

（保護者の方が）考えすぎてしまい、直接交流に踏み出せない。

☆地域指定校のクラスの友達が理解してくれる子がいることが一番良いと感じる。

☆地域指定校の担任の先生から、子供の様子に合わせて交流内容を提案してくれ、無理なく続けることができた。

保護者の体験談や座談会では、具体的な内容や課題についても聞くことができてよかった。